

第3学年 社会科学学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「安全な暮らしを守る」 教材名「火事から人びとを守る」

2 単元の目標

消防署などの機関は連携して緊急時に対応し、地域の人々と協力して火災を防いでいることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「火事が起きたときにすぐ動くため、ふだんからどんな備えがあるだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(3)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消防署などの機関は連携して緊急時に対応し、地域の人々と協力して火災を防いでいることを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「火事が起きたときにすぐ動くため、ふだんからどんな備えがあるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①火事から人びとを守るの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「火事から人びとを守る」は、第3学年の(3)を手掛かりに、人々の働きと社会の仕組みを調べる単元である。中心となる理解は、消防署などの機関は連携して緊急時に対応し、地域の人々と協力して火災を防いでいることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「火事が起きたときにすぐ動くため、ふだんからどんな備えがあるだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、地域の消防設備から問題を立てるところから始め、機関と住民の協力を関係図にする活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には消防の働きを備えと対応の両面から説明することで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本時では「火事が起きたときにすぐ動くため、ふだんからどんな備えがあるだろうか」を中心の問いに据える。消防署の公開資料や見学記録から、通報を受けて出動する仕組み、器具の点検や訓練、消防団や水道などとのつながりを調べる。消火活動と火災予防を別欄にし、両方が必要な理由を話す。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。消防車だけが安全を守ると考える子には通信・水利・医療・地域の協力も関係図にする。個人の注意だけに原因を求めず制度や設備の働きを扱う

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。緊急通報番号へ練習の電話をかけない。実際の火や煙を使わず、見学先の業務と安全の指示を優先する

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○地域の消防設備から問題を立てる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	3～4	○通報から出動の流れを資料で調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	5～6	○素早く活動するための日常の備えを調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	7～8	○機関と住民の協力を関係図にする。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	9 （本時を含む）	○予防の仕事と自分たちの行動を考える。 ○消防署の公開資料や見学記録から、通報を受けて出動する仕組み、器具の点検や訓練、消防団や水道などとのつながりを調べる。消火活動と火災予防を別欄にし、両方が必要な理由を話す。	思①（個人の説明・記録）
第6次	10	○消防の働きを備えと対応の両面から説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）

6 本時の指導（9／10（配当案））

（１）本時の目標

「火事が起きたときにすぐ動くため、ふだんからどんな備えがあるだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「地域の消防設備から問題を立てる」ときの疑問を取り出す。 ○「火事が起きたときにすぐ動くため、ふだんからどんな備えがあるだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・消防署などの機関は連携して緊急時に対応し、地域の人々と協力して火災を防いでいるのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・緊急通報番号へ練習の電話をかけない。実際の火や煙を使わず、見学先の業務と安全の指示を優先する
展開 （ 分）	○前時までの観察・調査の記録を使う。以下に示す調べ方を振り返り、本時は問いに関係する記録を比較する。追加の実験・調査は方法を計画し、次時に確かめる。 ○消防署の公開資料や見学記録から、通報を受けて出動する仕組み、器具の点検や訓練、消防団や水道などとのつながりを調べる。消火活動と火災予防を別欄にし、両方が必要な理由を話す。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方確かめ直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・機関と住民の協力を関係図にすることで、理由を確かめたい。	・消防車だけが安全を守ると考える子には通信・水利・医療・地域の協力も関係図にする。個人の注意だけに原因を求めず制度や設備の働きを扱う ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ・本時に単元全体の実験や調査をやり直さない。比較する記録を準備し、方法を確認する必要がある部分だけを実物で示す。 ◎思① 「火事が起きたときにすぐ動くため、ふだんからどんな備えがあるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】消防署などの機関は連携して緊急時に対応し、地域の人々と協力して火災を防いでいる。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

（３）板書計画

上段に「火事から人びとを守る」と本時の問い「火事が起きたときにすぐ動くため、ふだんからどんな備えがあるだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。機関と住民の協力を関係図にする際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

